

解剖学 [系統解剖学]

担当講座（分野）：解剖学講座（機能形態学分野）

第2学年 前期・後期

	講義	演習	実習
前期	37.5 時間	4.5 時間	21.0 時間
後期	22.5 時間	3 時間	111.0 時間

教育成果（アウトカム）

人体を構成する諸器官の形態的特徴と空間的結合・配列について、その機能との関連を考えながら学ぶことにより、形態の普遍性と変異を三次元的に理解できるようになる。また、器官が持つ形態の意義とその構造が存在する理由を個体発生的・系統発生的に理解できるようになる。さらに、歯科医師として歯科疾患に対する適切な検査・治療を行うために臨床上必須な三次元的局所解剖学的知識に基づいて、頭頸部領域の構造を説明できるようになる。（ディプロマポリシー：3、4、8、9）

事前学修内容及び事前学修時間（30分）

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、各欄に示す教科書の該当領域を読み、要点をまとめる事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

講義日程

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
4月3日 (金) 1限	藤原尚樹教授	解剖学概論 骨学概論 系統解剖学で学ぶ内容、 身体の方向用語などの基本事項を理解する。 骨の肉眼的構造と関節を理解する。	1. 系統解剖学とは何かについて説明できる 2. 身体を構築する各器官系について説明できる。 3. 身体の方角用語を説明できる。 4. 骨の2つの形成様式の相違を説明できる。 5. 骨の肉眼的構造を説明できる。 6. 関節の構造と運動を関連して説明できる。 [C-3-1)-(①] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P1～P4、P5～P7, P31～36
4月3日 (金) 2限	藤原尚樹教授	骨学：椎骨・肋骨 椎骨の基本的な形態と脊柱としての機能を理解する。	1. 椎骨の基本構造が説明できる。 2. 各椎骨の特徴を説明できる。 3. 椎骨の彎曲と体重支持の関連性について説明できる。 4. 肋骨の連結と胸郭の構造を説明できる。 [C-3-4)-(2)-(①] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P7～P11

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
4月7日 (火) 1限	藤原尚樹教授	骨学：上肢骨・下肢骨 上肢骨・下肢骨の構成と機能との関連を理解する。	1. 上肢帯・下肢帯を構成している骨を列挙できる。 2. 肩甲骨・鎖骨の形態と肩関節、骨盤の形態と股関節の構造的特徴を説明できる。 3. 上腕骨・橈骨・尺骨の形態と特徴、肘関節の構造を説明できる。 4. 手根骨とその化骨年齢を説明できる。 5. 手の骨と足の骨との違いを説明できる。 6. 脊椎との連結と骨盤の構造を説明できる。 7. 膝関節と体重支持の関連性を説明できる。 [C-3-4)-(2)-①] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P11～P14
4月10日 (金) 1限	藤原尚樹教授	骨学： 頭蓋冠・前頭骨・頭頂骨 頭蓋骨を構成する骨を理解し、それぞれの縫合と形成を理解する。	1. 頭蓋骨の基本的配列を説明できる。 2. 頭蓋骨相互の関節（縫合）を説明できる。 3. 頭蓋の発生と縫合の変化を説明できる。 4. 前頭骨・頭頂骨の構造を説明できる。 [E-2-1)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P94～P101
4月10日 (金) 2限	藤原尚樹教授	骨学：内・外頭蓋底 側頭骨・蝶形骨・後頭骨 頭蓋骨を構成する骨を理解し、それぞれの縫合と形成を理解する。 エックス線写真の読影にかかわる骨学を理解する。	1. 脳頭蓋を説明できる。 2. 内頭蓋底の神経、血管の通路を説明できる。 3. 外頭蓋底の特徴を説明できる。 4. 外・内頭蓋底の関連性を説明できる。 5. 頭蓋底を区分して説明できる。 6. 頭蓋骨の基準平面を説明できる。 7. 頭蓋骨計測点を説明できる。 [E-2-1)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P102～P107
4月14日 (火) 1限	藤原尚樹教授	骨学： 上顎骨・口蓋骨・頬骨 上顎骨・口蓋骨・頬骨の形態と上顎神経の経過を理解する。	1. 頭蓋骨における上顎骨の位置を説明できる。 2. 上顎骨と接合する骨を説明できる。 3. 口蓋・鼻腔の構成を説明できる。 4. 上顎の歯の植立と上顎歯に分布する神経の経路を説明できる。 5. 上顎洞について説明ができる。 [E-2-1)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P108～P114
4月17日 (金) 1限	藤原尚樹教授	骨学：下顎骨・舌骨 下顎骨の形態と筋の付着、下歯槽神経の分布を理解する。	1. 咀嚼筋の付着部位を説明できる。 2. 顎関節の構造を説明できる。 3. 舌骨上筋の付着部位を説明できる。 4. 下顎の歯の植立と下顎の歯に分布する神経の経過を説明できる。 5. 頬棚について説明できる。 6. 臼後隆起と臼後三角の関連について説明できる。 [E-2-1)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P114～P117

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
4月17日 (金) 2限	藤原尚樹教授	骨学：頭蓋前面 眼窩・鼻腔・翼口蓋窩 分離骨、連骨を用いて顔面骨・眼窩・翼口蓋窩の構築を理解する。	1. 眼窩と交通する経路および通過する構造物を説明できる。 2. 頭蓋腔と交通する経路および通過する構造物を説明できる。 3. 鼻腔・鼻中隔を構成する骨と位置関係を説明できる。 4. 鼻甲介と鼻道に関連性、副鼻腔について説明できる。 5. 翼口蓋窩と周囲腔の交通を説明できる。 6. 頭蓋腔と交通する経路および通過する構造物を説明できる。 [E-2-1)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P107～P114, 117～120
4月21日 (火) 1限	水川卓磨助教 (歯科矯正学分野) 藤原尚樹教授	骨学： 頭部エックス線規格写真 (セファログラム)と頭部計測基準点 歯科矯正、歯科放射線に関連する臨床解剖学を理解する。	1. 頭蓋骨標本と頭部エックス線規格写真を対比し、矯正歯科的基準点を理解する。 2. 頭蓋骨の基準平面、計測点を説明できる。 3. エックス線セファログラムの計測点を説明できる。 [E-2-1)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P237～P248
4月24日 (金) 1限	藤原尚樹教授	骨学演習 全身を構成する骨、特に頭頸部を構成する骨の解剖学的特徴を整理する。	1. 全身の骨を列挙できる。 2. 各骨の連結、関節を説明できる。 3. 頭蓋骨の形成に関わる骨、それぞれの連結について説明できる。 4. 頭蓋を構成する骨が持つ孔、裂等の通過構造物を説明できる。 [C-3-4)-(2)-①, E-2-1)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容を復習しておくこと。P5～17, P94～P120, P237～P248
4月28日 (火) 1限	藤原尚樹教授	骨学：骨学のまとめ 到達度試験	1. 頭頸部を含め全身の骨の配列や解剖学的特徴を列挙できる。 2. 各骨の連結、関節を説明できる。 3. 頭蓋を構成する骨が持つ孔、裂等の通過構造物を説明できる。 4. 頭蓋とエックス線規格写真とを関連づけて説明できる。 [C-3-4)-(2)-①, E-2-1)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P5～17, P94～P120, P237～P248

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
5月1日 (金) 1限	藤原尚樹教授	筋学概論 筋学：体幹 運動器としての筋肉の特性、推進軸と筋肉の配列を理解する。 体幹の筋肉の特徴を理解する。	1. 骨格筋の基本配列を説明できる。 2. 背側筋群と腹側筋群の違いを説明できる。 3. 筋の起始と停止を説明できる。 4. 筋の作用について説明できる。 5. 筋の補助装置を説明できる。 6. 体幹の筋肉を区分できる。 7. 脊柱起立筋を説明できる。 8. 胸腔を囲む筋肉を説明できる。 9. 腹腔を囲む筋肉を説明できる。 [C-3-4)-(3)-①, C-3-4)-(3)-③] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P18～24
5月8日 (金) 1限	藤原尚樹教授	筋学：上・下肢の筋 上肢と下肢の筋の特徴を理解する。	1. 上肢帯の筋を説明できる。 2. 自由上肢の筋を説明できる。 3. 主動筋と拮抗筋の働きを説明できる。 4. 下肢帯の筋を説明できる。 5. 自由下肢の筋を説明できる。 6. 上肢と下肢の筋の違いを説明できる。 [C-3-4)-(3)-①, C-3-4)-(3)-③] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P24～30
5月12日 (火) 1限	藤原尚樹教授	筋学：表情筋 表情筋の構造と作用を理解する。	1. 表情筋の構造と作用を説明できる。 2. 口裂周囲筋の構造と作用を説明できる。 3. 頬筋の構造と作用を説明できる。 4. 表情筋の総合的な機能を説明できる。 5. 表情筋の神経支配を説明できる。 6. 表情筋の栄養血管を説明できる。 7. 口角結節の構造を説明できる。 [E-2-1)-③] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P121～124, 127
5月15日 (金) 1限	藤原尚樹教授	筋学：咀嚼筋 咀嚼筋の構造と作用を理解する。	1. 各咀嚼筋の構造と作用を説明できる。 2. 咀嚼筋の総合的な機能を説明できる。 3. 咀嚼筋の神経支配を説明できる。 4. 咀嚼筋の栄養血管を説明できる。 5. 咀嚼筋隙を区分して説明できる。 [E-2-1)-③] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P125～127
5月19日 (火) 1限	藤原尚樹教授	筋学：頸部の筋、舌骨筋 舌骨上筋と舌骨下筋の構造と作用を理解する。	1. 舌骨上筋の構造と作用を説明できる。 2. 舌骨下筋の構造と作用を説明できる。 3. 舌骨筋の総合的な機能を説明できる。 4. 舌骨筋の神経支配を説明できる。 [E-2-1)-③] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P127～128

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
5月22日(金) 1限	藤原尚樹教授	筋学：頸筋と頸筋膜 側頸筋と頸椎筋ならびに頸筋膜の拡がりを理解する。	1. 側頸筋の構造と作用を説明できる。 2. 頸椎筋の構造と作用を説明できる。 3. 頸筋の神経支配を説明できる。 4. 頸筋膜を区分して説明できる。 5. 頸部の筋隙を炎症の波及の観点から説明できる。 [E-2-1)-③] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P129, 224～231
5月26日(火) 1限	藤原尚樹教授	筋学：顎関節（咀嚼様式・ヒトの顎関節の特徴） 顎関節の形態と進化を咀嚼様式から理解する。ヒトの顎関節の形態を理解する。	1. 顎関節の特徴を説明できる。 2. 蝶番運動と関連する顎関節の形状を説明できる。 3. 臼磨運動と関連する顎関節の形状を説明できる。 4. 前後運動と関連する顎関節の形状を説明できる。 5. 複関節を説明できる。 6. 雑食性動物の顎関節を説明できる。 7. ヒトの顎関節の形態を説明できる。 8. 側方運動と顎関節の相関性を説明できる。 9. 顎関節を動かす筋肉を説明できる。 10. 顎関節の支配神経を説明できる。 [E-2-1)-⑥] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P130～132
5月29日(金) 1限	藤原尚樹教授	筋学演習 全身を構成する筋、特に頭頸部を構成する筋の解剖学的特徴を整理する。	1. 全身の筋を列挙できる。 2. 筋の起始・停止と機能について説明できる。 3. 頭蓋骨の付着部を説明できる。 4. 表情筋の機能を説明できる。 5. 咀嚼筋の機能を説明できる。 6. 咀嚼運動を説明できる。 7. 嚥下運動を説明できる。 [C-3-4)-(3)-①, C-3-4)-(3)-③, E-2-1)-③, E-2-1)-⑥] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P121～132, 224～231
6月2日(火) 1限	藤原尚樹教授	筋学：筋学のまとめ 到達度試験	1. 頭頸部を含め全身の筋肉を列挙できる。 2. 筋の機能について説明できる。 3. 頭頸部の骨の頭蓋骨の付着部を説明できる。 4. 咀嚼運動・嚥下運動と関係する筋について説明できる。 [C-3-4)-(3)-①, C-3-4)-(3)-③, E-2-1)-③, E-2-1)-⑥] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P121～132, 224～231

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
6月5日(金) 1限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	体液の循環：循環系の概 論 脈管学：心臓 脈管の分類、特徴、機能 を理解する。 心臓の発生、形態、機 能、神経支配を理解す る。	1. 動・静脈、リンパ管の概念、形態学的相違、 機能の違いを説明できる。 2. 血管の発生過程における心臓の発生の特 徴を説明できる。 3. 心臓の形態学的特徴から、各部位の機能 を説明できる。 4. 心臓の拍動と心電図波形の関係を説明で きる。 [C-3-4)-(4)-①, C-3-4)-(4)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読 み、内容をまとめておくこと。P37～48, 52～53
6月9日 (火) 1限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	脈管学： 大動脈・上下肢の動脈 大動脈弓の枝、胸・腹部 大動脈の枝および分布領 域を理解する。 上肢と下肢の動脈の相同 性と分布の特徴を理解す る。	1. 大動脈弓の枝の特徴、左右の違いを説明 できる。 2. 胸部大動脈・腹部大動脈の走行の特徴及 び枝を説明できる。 3. 鎖骨下動脈～上腕、前腕、手に分布する 動脈の走行と特徴を説明できる。 4. 総腸骨動脈、外腸骨動脈・内腸骨動脈の 分岐と分布域の特徴を説明できる。 5. 殿部、大腿、下腿、足に分布する動脈の 走行と特徴を説明できる。 [C-3-4)-(4)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読 み、内容をまとめておくこと。P49～51
6月12日 (金) 1限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	脈管学：頭頸部の動脈 内頸動脈・外頸動脈の枝 (上甲状腺動脈、顔面動 脈、舌動脈) 頭頸部の動脈の走行を理 解する。 内頸動脈・外頸動脈の走 行を理解する。 上甲状腺動脈、顔面動 脈、舌動脈の分枝と範囲 を理解する。	1. 頭頸部に分布する動脈を説明できる。 2. 大動脈弓から分岐する動脈の走行を説明 できる。 3. 脳の栄養血管、ウィリスの動脈輪を説明 できる。 4. 上甲状腺動脈・顔面動脈・舌動脈の分岐お よび走行経路を説明できる。 [E-2-1)-④] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読 み、内容をまとめておくこと。P133～135, 137
6月16日 (火) 1限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	脈管学：外頸動脈の終枝 (顎動脈、浅側頭動脈) 顎顔面に分布する動脈の 分枝と範囲を理解する。	1. 顎動脈の区分、分布領域、走行経路を説 明できる。 2. 顎動脈の特徴と人種差を説明できる。 3. 口蓋に分布する動脈の走行経路を説明で きる。 4. 浅側頭動脈の分岐および走行経路を説明 できる。 [E-2-1)-④] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読 み、内容をまとめておくこと。P135～137

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
6月19日(金) 1限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	脈管学：体液の回収経路 (静脈系)・頭頸部の静脈 静脈の形態的特徴、動脈 の走行との違いを理解す る。 頭頸部の回収経路とし ての静脈を理解する。	1. 動脈と静脈の形態学的相違点を説明できる。 2. 動脈には認められない静脈の走行の特徴を説明できる。 3. 側副循環路の皮膚直下、腹腔内における連絡を説明できる。 4. 内頸静脈の枝と回収域を説明できる。 5. 顎顔面の静脈の特徴を説明できる。 6. 翼突静脈叢・海綿静脈洞の導出静脈などについて解剖学的に説明できる。 7. 静脈洞の特徴を説明できる。 [E-2-1)-④] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P51～53
6月23日 (火) 1限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	脈管学：体液の回収経路 (リンパ系) 頭頸部のリンパ管 動・静脈との形態的相違 点を理解する。 機能としての免疫を理解 し、そのためのリンパ組 織、特に領域リンパ節、 リンパ管構築を理解す る。 頭頸部のリンパ管経路、 領域リンパ節を理解す る。	1. 免疫の基本を説明できる。 2. リンパ球産生能を持つリンパ組織の位置、構造を説明できる。 3. 各臓器の所属リンパ節を説明できる。 4. リンパ管の機能としての吸収能を理解し、各臓器のリンパ管構築の特徴を説明できる。 5. 顎顔面の所属リンパ節を説明できる。 6. 口腔領域の所属リンパ節を説明できる。 7. ワルダイエルの咽頭輪を構成する扁桃、リンパ節を説明できる。 8. 頭頸部腫瘍におけるリンパ管の重要性を説明できる。 [C-3-4)-(4)-⑤, E-2-1)-④] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P53～56, 139～144
6月26日 (金) 1限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	体液の循環：胎生循環 胎生期特有の血液の流れ やそれに伴う構造につい て理解する。またこれら の血管に関連する出生後 の構造を理解する。	1. 胎生循環と心臓の構造の関係を説明できる。 2. 胎生に特有の循環経路とそれを構成する血管の役割を説明できる。 3. 胎生期に特有の血管に関連する出生後の構造について説明できる。 [E-2-1)-④] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P52～53
6月30日 (火) 1限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	循環器演習 動脈・静脈・リンパの頭 頸部ならびに全身の解剖 学的特徴を整理する。	1. 全身の主な血管を列挙できる。 2. 頭頸部の主な動脈の走行と分布範囲を説明できる。 3. 頭頸部の静脈の走行を説明できる。 4. リンパの流れを説明できる。 5. 胎生期と出生後の血流の異同を説明できる。 [C-3-4)-(4)-②⑤, E-2-1)-④] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P49～56, P133～144

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月4日(金) 2限	藤原尚樹教授	神経学概論・脳幹 中枢神経の構成と発生を理解する。 末梢神経の特性、脊髄神経と脳神経の相違を理解する。 延髄・橋・中脳の位置や構造、役割を理解する。	1. 神経管の発生について説明できる。 2. 中枢神経の区分を説明できる。 3. 神経管と脳室について説明できる。 4. 末梢神経の定義・基本的構造を説明できる。 5. 脳神経と脊髄神経を区別できる。 6. 脳幹の構成要素と機能について説明できる。 [C-3-4)-(5)-①~③] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P57~61, 65~69, 145~154
9月4日(金) 3限	藤原尚樹教授	神経学：間脳、小脳、終脳、脊髄 間脳・小脳・終脳・脊髄の構造と神経路を理解する。 終脳の発生と進化を理解する。 神経分泌を理解する。	1. 脳神経核・白質・灰白質について説明できる。 2. 間脳、小脳の構造と機能を説明できる。 3. 大脳回と大脳溝の構成と機能を説明できる。 4. 脊髄の各部の機能と特徴を説明できる。 [C-3-4)-(5)-④] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P61~64
9月18日(金) 1限	藤原尚樹教授	神経学：脊髄神経 頸神経叢・腕神経叢・腰神経叢・仙骨神経叢 脊髄神経の特徴と頸神経叢・腕神経叢の構成と支配領域と機能を理解する。 腰・仙骨神経叢の構成と支配領域と機能を理解する。	1. 脊髄神経の構造と特徴が説明できる。 2. 頸神経叢の構成が説明できる。 3. 神経幹の枝の構成と機能を説明できる。 4. 神経束の構成と機能を説明できる。 5. 腰神経叢・仙骨神経叢の構成と支配領域を説明できる。 [C-3-4)-(5)-④] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P154~156
9月25日(金) 1限	藤原尚樹教授	神経学：脳神経 (I~IV、VI、VIII、XII) 脳神経I~IV、VI、VIII、XIIの支配領域と機能を理解する。	1. 脳神経の機能を説明できる。 2. 眼の筋肉の支配神経を説明できる。 3. 視覚伝達を説明できる。 4. 聴覚と平衡感覚を説明できる。 5. 舌筋の神経支配を説明できる。 [E-2-1)-⑤] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P159~160
10月2日(金) 1限	藤原尚樹教授	神経学：脳神経 (V1、V2) 眼神経、上顎神経の経過と支配領域を理解する。	1. 上顎神経の支配領域を説明できる。 2. 上顎神経の経過を説明できる。 3. 上顎神経の枝の構成と機能を説明できる。 4. 上顎神経の神経節と機能を説明ができる。 5. 口蓋の神経支配を説明できる。 6. 上顎歯の神経支配を説明できる。 7. 顔面皮膚の神経支配を説明できる。 8. 涙腺の神経支配を説明できる。 [E-2-1)-⑤] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P160~163

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
10月9日(金) 1限	藤原尚樹教授	神経学：脳神経 (V3) 下顎神経の経過と支配領域を理解する。	1. 下顎神経の支配領域を説明できる。 2. 下顎神経の経過を説明できる。 3. 下顎神経の枝の構成と機能を説明できる。 4. 下顎神経の神経節と機能を説明ができる。 5. 舌の神経支配を説明できる。 6. 下顎歯の神経支配を説明できる。 7. 顔面皮膚の神経支配を説明できる。 8. 唾液腺の神経支配を説明できる。 9. 咀嚼筋の神経支配を説明できる。 10. 第一鰓弓筋の神経支配を説明できる。 [E-2-1)-⑤] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P163～165
10月16日(金) 1限	藤原尚樹教授	神経学：脳神経 (VII、IX) 顔面神経、舌咽神経の支配領域と機能、走行を理解する。	1. 舌咽神経の構成と支配領域を説明できる。 2. 血圧と脈拍の調節を説明できる。 3. 副交感神経の機能を説明できる。 4. 耳下腺の神経支配を説明ができる。 5. 唾液腺の神経支配を区分して説明できる。 6. 耳神経節・顎下神経節・舌下神経節の構成と機能を説明できる。 7. 節前線維と節後線維の相違を説明できる。 [C-3-4)-(5)-④、E-2-1)-⑤] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P165～167
10月23日(金) 1限	藤原尚樹教授	神経学：脳神経 (X～XII) 自律神経 迷走神経、副神経の支配領域と機能を理解する。自律神経の構成と機能を理解する。	1. 喉頭の筋肉の神経支配を説明できる。 2. 心臓、肺、消化器の神経支配を説明できる。 3. 自律神経節の構成と機能を説明できる。 4. 節前線維と節後線維の相違を説明できる。 5. 交感神経幹を説明できる。 6. 自律神経の伝達物質を説明できる。 [C-3-4)-(5)-④、E-2-1)-⑤] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P157～159, 165～169
10月30日(金) 1限	藤原尚樹教授	神経学演習 中枢神経,末梢神経の解剖学的特徴を整理する。頭頸部の構造を支配する神経の走行や機能を整理する。	1. 中枢神経の基本構造を説明できる。 2. 末梢神経としての脊髄神経叢の走行、分布を説明できる。 3. 自律神経の構成を説明できる。 4. I～XII脳神経の走行を説明できる。 5. 三叉神経、顔面神経、舌咽神経の分布領域を説明できる。 [C-3-4)-(5)-④、E-2-1)-⑤] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P57～69, 145～169

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
11月6日(金) 1限	藤原尚樹教授	神経学のまとめ 到達度試験	1. 中枢神経・末梢神経の区分と基本構造を説明できる。 2. 脊髄神経の種類、走行を説明できる。 3. I～XII脳神経の走行を説明できる。 4. 三叉神経、顔面神経、舌咽神経の分布領域を説明できる。 5. 自律神経の構成を説明できる。 [C-3-4)-(5)-④, E-2-1)-⑤] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P57～69, 145～169
11月13日(金) 1限	藤原尚樹教授	口腔内臓：口腔粘膜、口唇・口腔前庭 口腔の範囲を理解する。口腔を被っている粘膜の種類と機能を理解する。	1. 口腔の区分（固有口腔と口腔前庭）を説明できる。 2. 口腔、鼻腔、咽頭のつながりを説明できる。 3. 粘膜の分類を説明できる。 4. 咽頭の構造を説明できる。 5. 口唇の範囲を説明できる。 6. 歯肉粘膜の区分とその機能を説明できる。 [E-2-2)-①, E-2-2)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P170～172, 175～177
11月20日(金) 1限	藤原尚樹教授	口腔内臓：固有口腔、口蓋、口腔底、舌背 口腔の範囲を理解する。歯肉の構造、歯周組織と歯の結合を理解する。口蓋を構成する骨、筋肉を理解する。	1. 硬口蓋を構成する骨を説明できる。 2. 軟口蓋を構成する筋肉の構成と支配神経を説明できる。 3. 軟口蓋の筋肉と咽頭、喉頭の筋肉との関係を説明できる。 4. 口蓋の構造と総義歯作成に関する注意点を説明できる。 5. 口峽部と口腔底にみられる構造を説明できる。 [E-2-2)-①, E-2-2)-②] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P172～176
11月27日(金) 1限	藤原尚樹教授	口腔内臓：舌、唾液腺 舌背の構造を理解する。舌を構成する筋肉、運動・知覚神経支配、味覚神経を理解する。唾液腺の種類と支配神経を理解する。	1. 舌乳頭をその機能から説明できる。 2. 味蕾の存在する舌乳頭を説明できる。 3. 内舌筋、外舌筋の起始、停止、機能を説明できる。 4. 舌下神経の走行経路と分布域を説明できる。 5. 舌の味覚・知覚を支配する神経の走行経路を説明できる。 6. 味覚障害と他の疾患との組み合わせにより、障害部位を特定できる。 7. 唾液腺の構造および分類を説明できる。 8. 唾液腺の神経支配を、神経の走行と障害を関連づけて説明できる。 [E-2-2)-③⑥] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P176～184

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
12月4日(金) 1限	藤原尚樹教授	口腔内臓：咽頭・嚥下、呼吸器 咽頭を構成する筋肉を理解する。 咀嚼・嚥下に関わる筋学を理解する。 呼吸器系を理解する。	1. 咽頭を構成する筋肉を説明できる。 2. 口輪筋との関係を説明できる。 3. 嚥下の機構を説明できる。 4. 嚥下のステージと関与する舌骨上筋群の関連を説明できる。 5. 鼻腔、咽頭、喉頭の構造を説明できる。 6. 気管、気管支、肺の構造を説明できる。 7. 呼吸の様式について説明できる。 [E-2-1)-⑧⑩⑫、C-3-4)-(8)] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P184～195, 208～211
12月11日(金) 1限	藤原尚樹教授	内臓学：消化器・内分泌 消化器系を理解する。 内分泌器系を理解する。	1. 消化管の基本構造を説明できる。 2. 消化管各部位の構造と機能について説明できる。 3. 肝臓、胆嚢、膵臓の構造と機能について説明できる。 4. 腹膜と腹膜後器官について説明できる。 5. 内分泌器官の種類と構造について説明できる。 6. 内分泌器官から分泌されるホルモンの種類と働きについて説明できる。 [C-3-4)-(7)、(9)] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P79～88, 198～201
12月18日(金) 1限	藤原尚樹教授	内臓学：泌尿器、生殖器、感覚器 呼吸器系を理解する。 泌尿生殖器系を理解する。 感覚器を理解する。	1. 腎臓、尿管、膀胱の基本構造について説明できる。 2. 男性生殖器の構造を説明できる。 3. 女性生殖器の構造を説明できる。 4. 皮膚の構造と機能について説明できる。 5. 視覚、聴覚、平衡覚に関する感覚器の構造について説明できる。 [C-3-4)-(6), (10), (11)] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P70～78, 196～198
1月8日(金) 1限	藤原尚樹教授	内臓学演習 消化器系、呼吸器系、感覚器系、泌尿器系、生殖器系、感覚器系の解剖学的特徴を整理する。 頭頸部周辺および口腔内臓の構造と支配する神経の走行や機能を整理する。	1. 口腔の区分（固有口腔と口腔前庭）を説明できる。 2. 口腔、鼻腔、咽頭のつながりを説明できる。 3. 粘膜の分類を説明できる。 4. 咽頭の構造を説明できる。 5. 口唇の範囲を説明できる。 6. 歯肉粘膜の区分とその機能を説明できる。 [C-3-4)-(6)～(11)、E-2-1)-⑧⑩⑫、[E-2-2)-①～③⑥] 事前学習：口腔解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P70～88, P170～211

彫刻実習日程

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
5月15日(金) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	【彫刻の方法】 石膏彫刻をすることにより、歯の形態を立体的に理解し、特に臨床では見えない歯冠と歯根の位置関係を想像できるようになる。 【上顎中切歯 1】 上顎中切歯の形態を理解する。	1. 石膏操作が行える。 2. 歯の方向を示す用語が説明できる。 3. 歯の構造を示す用語が説明できる。 4. 歯のスケッチが行える。 5. 上顎中切歯の形態が説明できる。 6. 切歯の左右側識別点を説明できる。 7. 上顎中切歯のラフスケッチが2分以内で描ける。 [E-3-1)-②] 事前学習：歯の解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P200～218
5月22日(金) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	【上顎中切歯 2】 上顎中切歯の形態を理解する。	1. 上顎中切歯の形態が説明できる。 2. 切歯の左右側識別点を説明できる。 3. 上顎中切歯のラフスケッチが2分以内で描ける。 4. 上顎中切歯を立体的に把握できる。 [E-3-1)-②] 事前学習：歯の解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P37～56
5月29日(金) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	【上顎中切歯 3】 上顎中切歯の形態を理解する。	1. 上顎中切歯の形態が説明できる。 2. 切歯の左右側識別点を説明できる。 3. 上顎中切歯を立体的に把握できる。 [E-3-1)-②] 事前学習：歯の解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P37～56
6月5日(金) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	【下顎第一大臼歯 1】 下顎第一大臼歯の形態を理解する。	1. 下顎第一大臼歯の形態が説明できる。 2. 下顎第一大臼歯の左右側を説明できる。 3. 下顎第一大臼歯のラフスケッチが2分以内で描ける。 4. 下顎第一大臼歯を立体的に把握できる。 [E-3-1)-②] 事前学習：歯の解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P76～83
6月12日(金) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	【下顎第一大臼歯 2】 下顎第一大臼歯の形態を理解する。	1. 下顎第一大臼歯の形態が説明できる。 2. 下顎第一大臼歯の左右側を説明できる。 3. 下顎第一大臼歯のラフスケッチが2分以内で描ける。 4. 下顎第一大臼歯を立体的に把握できる。 [E-3-1)-②] 事前学習：歯の解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P76～83
6月19日(金) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	【下顎第一大臼歯 3】 下顎第一大臼歯の形態を理解する。	1. 下顎第一大臼歯の形態が説明できる。 2. 下顎第一大臼歯の左右側を説明できる。 3. 下顎第一大臼歯を立体的に把握できる。 [E-3-1)-②] 事前学習：歯の解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P76～83

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
6月26日(金) 3,4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	【永久歯総復習】 上顎・下顎中切歯～第二 大臼歯までの形態を復習 し,理解する。	1. 上顎の歯の形態を説明できる。 2. 下顎の歯の形態を説明できる。 3. 左右の歯列に存在する歯を鑑別できる。 4. 各歯の特徴的な形態を整理して説明できる。 [E-3-1)-②] 事前学習：歯の解剖学の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P37～83

臨床解剖実習日程

※臨床解剖実習は解剖学的知識を統合して実施する。実習全体を通して該当するコア・カリキュラムは下記のとおりである。

[C-3-1)-①, C-3-4)-(2)-①, C-3-4)-(3)-①③, C-3-4)-(4)-②⑤, C-3-4)-(5)-①～④, C-3-4)-(7), C-3-4)-(8), C-3-4)-(10)-①, C-3-4)-(11)-①, E-2-1), E-2-2)]

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月8日(火) 3,4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	オリエンテーション 背臥位での全身の体表観 察と胸腹部の皮剥 S1 くび・胸・腹部・上 肢・下肢の体表観察と 皮切 S3 胸腹部の皮静脈と皮 神経 S7 背なかの浅筋 S11 うでの皮切りと腕神 経叢 S53 下肢の皮静脈と皮神 経 (以下、同様に、内容に関し ては「寺田・藤田の解剖実 習の手引き」の該当セクシ ョンを示す)	1. 臨床解剖実習の目的について理解し、倫理 観を持って実習を行なう心構えを持てる。 2. 必要な実習態度、準備について理解し、 実行できる。 3. 背臥位で体表に観察できる構造が説明で きる。 4. 手術痕などを見きわめることができる。 5. 胸部から腹部までの皮下浅層の構造を説 明できる。 6. 皮静脈・皮神経の走行に注意しながら剖 出ができる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域 を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめ ておくこと。P1～7, 9～12, 23～25, 191～ 196
9月9日(水) 3,4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	背臥位での胸腹部・の皮 静脈・皮神経の観察 S3 胸腹部の皮静脈と皮 神経	1. 胸部から腹部までの皮下浅層の構造を説 明できる。 2. 皮静脈・皮神経の走行に注意しながら剖 出ができる。 3. 皮下の動脈・静脈・神経の走行と肋間動 脈・静脈・神経との関係を説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域 を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめ ておくこと。P4～11

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月15日(火) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	背臥位での頸部・上肢の 皮剥 広頸筋の剖出と頸部の皮 神経・皮静脈の観察 S2 広頸筋と乳腺 S11 うでの皮切りと腕神 経叢	1. 頸部の皮膚を広頸筋や神経の走行を理解しながら剖出できる。 2. 広頸筋の走行を理解し、頸神経叢の走行との関連を説明できる。 3. 広頸筋と表情筋の位置的関係を説明できる。 4. 上腕の皮膚を皮神経と皮静脈の走行を理解しながら剖出できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P7～8, 37～40
9月16日(水) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	背臥位での上肢の皮静 脈・皮神経の剖出 頸部浅層の筋・浅頸神経 ワナの観察 S5 頸神経叢の枝と胸鎖 乳突筋 S11 うでの皮切りと腕神 経叢	1. 上肢の皮神経の走行を理解しながら剖出できる。 2. 頸神経叢を構成する神経とそれらの分布を説明できる。 3. 浅頸神経ワナを構成する頸神経叢と顔面動脈頸枝との関係を説明できる。 4. 胸鎖乳突筋の走行と支配神経を説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P16～19, 37～40
9月18日(金) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	頸神経叢、頸部中層の筋 の観察 胸腹部の筋の観察 鎖骨切断 S4 大胸筋と外腹斜筋 S5 頸神経叢の枝と胸鎖 乳突筋 S8 くびのやや深層 S10 鎖骨下動脈とその枝 S30 鼠径部と側腹筋群 S31 腹直筋鞘	1. 頸神経叢と脊髄からでる位置との関係を剖出し説明できる。 2. 頸神経ワナからの筋肉への神経の分布を説明できる。 3. 頸動脈鞘と走行する脈管・神経を同定できる。 4. 鎖骨下動脈の分岐について剖出し説明できる。 5. 大胸筋・外腹斜筋の走行と機能が説明できる。 6. 鼠径部と側腹筋との関係を説明できる。 7. 腹直筋鞘の構造や特徴について説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P12～19, 25～29, 33～36, 93～101
9月23日(水) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	頸部深層の筋・脈管の観 察 腕神経叢の観察 S8 くびのやや深層 S9 胸部の深層と腋窩 S10 鎖骨下動静脈とその 枝 S11 うでの皮切りと腕神 経叢 S12 上腕屈側の筋と神経 S38 くびの根もとの深層 S75 甲状腺と気管	1. 頸部深層の筋の走行と神経支配について説明できる。 2. 頸神経叢、腕神経叢を剖出し、脊髄からでる位置とその走行について説明できる。 3. 鎖骨下動脈の枝を剖出、同定し、その走行を説明できる。 4. 上腕屈筋の走行と神経の走行との関係を説明できる。 5. 椎骨動脈が横突孔に入る位置を観察し、走行について説明できる。 6. 甲状腺に向かう動脈の走行を説明できる。 7. 気管の構造と甲状腺の位置関係を理解し、気管挿管について説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P25～44, 122～124, 287～289

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
9月25日(金) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	胸壁の筋・脈管の観察 胸壁・胸腔および胸部内臓の自然位での配置の観察 肺の観察 S 9 胸部の深層と腋窩 S 29 胸壁 S 35 胸腔を開く S 37 肺	1. 胸壁の筋と走行を説明できる。 2. 腋窩の構造と脈管・神経の走行を説明できる。 3. 腕神経叢からの枝とその走行を説明できる。 4. 腋窩動脈の走行を説明できる。 5. 自然位での胸部内臓について概説できる。 6. 肺の構造について説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P29～32, 91～93, 110～112, 117～121
9月29日(火) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	腹部側壁の観察 下肢の皮静脈と皮神経の観察 心臓の外景・内景の観察 S 30 鼠径部と側腹筋群 S 40 心臓の外景 S 41 心臓の内景 S 53 下肢の皮静脈と皮神経 S 55 大腿前面の深層	1. 側腹筋の同定と、これら筋膜と鼠径管の関係を説明できる。 2. 鼠径管と精索・子宮円索の走行を説明できる。 3. 下肢の皮静脈・皮神経の走行を理解し剖出できる。 4. 血管裂孔、筋裂孔について説明できる。 5. 心臓の構造と心臓に出入りする大血管の走行を説明できる。 6. 冠状動脈、観乗除脈の走行について説明できる。 7. 心臓の各部屋を同定でき、関係する構造を説明できる。 8. 心臓内での血液の流れを説明できる。 9. 卵円窩の位置とその発生的意義を説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P93～99, 127～137, 191～196, 198～203
9月30日(水) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	腹部の筋・筋膜の観察 胸部と腹部内臓の観察 下肢の皮静脈と皮神経および大腿三角の観察 S 30 鼠径部と側腹筋群 S 31 腹直筋鞘 S 32 横筋筋膜と腹膜 S 33 膈 S 34 腹部内臓の自然位での観察 S 35 胸腔を開く S 36 胸膜と心膜 S 39 縦隔 S 42 縦隔の深部 S 43 腹部内臓の位置 S 44 腹膜と腹膜腔 S 53 下肢の皮静脈と皮神経 S 55 大腿前面の深層	1. 腹直筋、腹直筋鞘、横筋筋膜と腹膜との関係について概説できる。 2. 外側際ヒダ、内側膈ひだ、正中膈ひだを発生学的に説明できる。 3. 腹部内臓の自然位での存在場所から各臓器を同定できる。 4. 縦隔と存在する臓器を説明できる。 5. 下肢の皮静脈と皮神経の走行を説明できる。 6. 伏在裂孔の位置と伏在静脈の分岐と走行を説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P93～116, 125～126, 137～150, 191～196. 198～203

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
10月2日(金) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	腹部内臓に分布する血管 の走行の観察 下枝の伸筋の観察 S 45 腹部内臓に分布する 血管と神経 S 55 大腿前面の深層 S 59 下腿の前面と足背	1. 腹部内臓に分布する血管の走行を説明できる。 2. 腹腔動脈、上腸間膜動脈、下腸間膜動脈が腹大動脈から分岐する位置を同定できる。 3. 大腿三角とみられる脈管・神経について説明できる。 4. 大腿筋膜張筋、大腿四頭筋、縫工筋の走行について説明できる。 5. 膝蓋骨と大腿四頭筋の関係を説明できる。 6. 内転筋群を説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P151～156, 198～203, 213～215
10月6日(火) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	縦隔の観察 腹部消化管と付属腺の観察 下腿伸筋の観察 脳硬膜の観察 頸部の構造のまとめ S 42 縦隔の深部 S 46 空腸と回腸と結腸 S 47 胃 S 48 肝臓 S 49 十二指腸・膵臓・脾臓 S 50 腎臓と副腎 S 58 膝窩と下腿後面 S 59 下腿の前面と足背 S 72 くびの深層 S 77 脳出し S 78 脳硬膜	1. 頸の深層から胸腔への連続性を説明できる。 2. 縦隔の概念を説明できる。 3. 縦隔にみられる臓器を列挙できる。 4. 腹部内臓を同定でき、周囲器官との関係を説明できる。 5. 下腿伸筋の走行を説明できる。 6. 脳硬膜と硬膜静脈洞の関係を説明できる。 7. 脳の外景から各脳を特定し、構造的特徴を説明できる。 8. 脳底の血管・脳表面を走行する血管を同定できる。 9. 脳神経の根から脳神経を特定できる。 10. 上肢全体の神経・脈管の走行と筋肉との関係について説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P137～142, 157～178, 210～215, 272～277, 297～301
10月7日(水) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	上肢屈筋～手掌の観察 後腹壁の観察 腰神経叢の観察 腎臓と副腎の自然位での観察 S 11 うでの皮切りと腕神経叢 S 12 上腕屈側の筋と神経 S 18 手のひらの皮切りと手掌腱膜 S 19 手のひらの浅い層 S 20 手の深い層 S 50 腎臓と副腎 S 51 後胸壁と後腹壁 S 52 横隔膜と腰神経叢 腰神経叢のまとめ	1. 上腕屈筋から手掌までの皮神経の走行を説明できる。 2. 上腕屈筋の種類と走行を説明できる。 3. 腹腔内での腎臓と副腎の位置と周囲臓器との関係を説明できる。 4. 横隔膜と周囲の臓器との関係を説明できる。 5. 後胸壁から後腹壁と腹膜腔気管に着いて概説できる。 6. 腰神経叢の走行と腰部筋肉との関係について説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P37～44, 62～72, 173～190

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
10月9日(金) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	腹臥位での後頭～背部筋 層の観察 上肢伸側の皮静脈・皮 神経の観察 § 6 背なかの皮切り § 7 背なかの浅筋 § 13 肩甲骨の前面の筋 § 14 上腕伸側と肩甲骨背 面の筋 § 21 上肢の血管と神経の まとめ § 27 後頭下の筋	1. 後頭～背部の筋の走行を説明できる。 2. 後頭の脈管・神経の走行を説明できる。 3. 上肢伸筋の走行と、皮静脈・皮神経の走 行を説明できる。 4. 肩甲骨前面・背面の筋の種類と走行を説 明できる。 5. 上腕に分布する脈管と神経の走行を頸部 から末梢まで説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域 を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめ ておくこと。P20～25, 45～49, 71～72, 84～85
10月13日 (火) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	上肢・下腿と足を構成す る筋肉の観察 固有背筋～臀部の筋の観 察 § 14 上腕伸側と肩甲骨背 面の筋 § 26 胸腰筋膜と固有背筋 § 28 脊髄(脊柱管開放) § 54 大腿筋膜と大殿筋 § 56 殿部の深層 § 57 大腿後面の深層 § 58 膝窩と下腿後面 § 59 下腿の前面と足背	1. 上腕伸筋に走行について説明できる。 2. 肩甲骨に付着する筋とその走行について 説明できる。 3. 固有背筋・後頭下の筋の立体的配置と椎 骨との関係について概説できる。 4. 大殿筋、大腿筋膜張筋の走行や機能を説 明できる。 5. 臀部を構成する筋肉を説明できる。 6. 坐骨神経と筋肉の位置的関係を概説できる。 7. 大腿後面の筋と膝窩の関係について説明 できる。 8. 下腿前面の構造について説明できる。 9. 足背・足底を構成する筋(腱)足底腱膜 と脈管神経の走行との関係について概説 できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域 を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめ ておくこと。P46～49, 82～83, 86～90, 197～197, 204～215

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
10月14日 (水) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	脊柱管を開く 脊柱管と脊髄の関係の観察 横隔膜と腰神経叢の観察 上肢切離し、腰切断、大 腿骨切断 § 15 上肢の切り離し § 28 脊髄 (脊柱管開放) § 52 横隔膜と腰神経叢	1. 第一頸椎、第二頸椎とそれにつく筋肉について説明できる。 2. 脊柱管とその中の脊髄の位置的关系について概説できる。 3. 脊髄神経節の位置を理解しながら、適切に脊柱管を開放できる 4. 脊髄、脊髄神経節と椎骨の関係について概説できる。 5. 横隔膜と横隔膜の孔を通る脈管神経について説明できる。 6. 腰神経叢、大腰筋の位置的关系について概説できる。 7. 体幹から上肢を切離す際に切断する必要がある構造を説明できる。 8. 腰切断の際に切断が必要な構造を説明できる。 9. 大腿骨切断の際に切断が必要な筋肉や脈管・神経を説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P50～51, 86～90, 185～190
10月16日 (金) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	前腕伸側～手背の観察 胃～小腸の観察 表情筋浅層の剖出 § 17 前腕の伸側と手背 § 20 手の深い層 § 46 空腸と回腸と結腸 § 47 胃 § 73 顔の浅層	1. 表情筋の配置と顔面神経の走行を概説できる。 2. 小腸と大腸の構造的異同について概説できる。 3. 幽門、十二指腸、空腸、回腸の構造について概説できる。 4. 胃の外景、内景、胃に出入りする血管について概説できる。 5. 前腕から手背にかけての伸筋群の走行を説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P56～61, 69～71, 157～164, 278～282
10月20日 (火) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	結腸・膀胱周辺の観察、 下肢屈筋深層の観察 顔面神経・顔面動脈の走 行の観察 耳下腺の観察 § 46 空腸と回腸と結腸 § 56 殿部の深層 § 57 大腿後面の深層 § 58 膝窩と下腿後面 § 61 下腿の最深層 § 63 足の関節 § 64 膀胱とその周辺 § 73 顔の浅層	1. 耳下腺が存在する位置と耳下腺導管の走行を説明できる。 2. 顔面神経の走行と耳下腺の関係を説明できる。 3. 横隔膜とこれを貫くものと横隔膜の孔との関係について説明できる。 4. 腹部内臓の位置、腹膜後器官について概説できる。 5. 腸間膜と臓器の关系到概説できる。 6. 膀胱位置と尿管の走行を説明できる。 7. 腹部内臓に分布する脈管・神経を同定し、その走行を概説できる。 8. 手術痕から自然位とは異なる内臓の配置がないかを理解できる。 9. 下肢後面の筋の走行を説明できる。 10. 膝窩の構成要素について概説できる。 11. 膝・足の関節について、靭帯と動きの关系到について概説できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P157～162, 204～212, 220～221, 225～230, 278～282

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
10月21日 (水) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	下腿の筋・血管と神経の 観察 表情筋深層の観察 咽頭後壁の観察 頸切断・脊柱縦断 S 60 足底 S 72 くびの深層 S 73 顔の浅層 S 74 咽頭	1. 表情筋の走行と顔面神経との関係を理解し、剖出できる。 2. 咽頭後壁を構成する筋肉の走行と各筋の支配神経の走行について説明できる。 3. 頸切断の際に、切断が必要な臓器、血管、神経を識別し、適切に切断できる。 4. 椎骨と椎間円板の関係、脊柱の前彎と後彎の関係を説明できる。 5. 骨質・椎間円板の加齢に伴う変化について考察できる。 6. 足の筋および腱の走行、血管と神経の走行との関係について説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P216～219, 272～286
10月23日 (金) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	舌骨上筋群の観察 外陰部と会陰の観察 S 65 外陰部と精巣・卵巣 S 66 男性・女性の会陰 S 73 顔の浅層	1. 各舌骨上筋とその宗興について説明できる。 2. 舌骨上筋と支配神経の関係について説明できる。 3. 尿生殖三角、肛門三角の概念を理解できる。 4. 会陰部の筋の配置について概説できる。 5. 精巣・陰茎の構造について概説できる。 6. 大陰唇、外尿道口、膣などを識別し、立体的構造を把握できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P230～262, 278～282
10月27日 (火) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	顎下腺の観察 舌の観察 頭蓋の折半 骨盤内臓の観察 S 5 頸神経叢の枝と胸鎖乳突筋 S 21 上肢の血管と神経のまとめ S 64 膀胱とその周辺 S 73 顔の浅層 S 79 頭蓋骨切半 S 83 舌と口蓋	1. 顎下三角と顎下腺の関係を説明できる。 2. 顎下腺の位置と顎下腺導管の走行、顎舌骨筋との関係について説明できる。 3. 舌尖～舌扁桃、舌下面の構造を説明できる。 4. 舌下動脈の走行について説明できる。 5. 頭蓋骨・内頭蓋底・咽頭・口腔の構造を理解し、頭部を半切する際に切断する器官・組織を概説できる。 6. 口腔・舌(舌筋)の正中断面から見た構造を説明できる。 7. 骨盤内臓の位置的関係について概説できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P16～19, 71～72, 229～230, 278～282, 301～304, 315～316
10月28日 (水) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	口腔・翼突下顎隙の観察 手と手根関節の観察 膝関節の観察と下肢のまとめ S 20 手の深い層 S 24 手くびの関節 S 25 手と指の関節 S 62 膝の関節 S 81 咀嚼筋と下顎管 S 82 顎関節と側頭下窩	1. 翼突下顎隙の構成要素を識別し説明できる。 2. 翼突下顎隙を走行する構造を説明できる。 3. 手と手根関節の構造について概説できる。 4. 膝関節と周囲の筋の走行について説明できる。 5. 膝関節を構成する人体の位置と走行、その役割を説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P69～71 78～81, 222～225, 310～315

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
10月30日 (金) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	鼻腔の観察 骨盤内臓の脈管と神経の観察 骨盤正中断 前腕の筋の付着部の観察 § 16 前腕屈側の浅い層 § 17 前腕の伸側と手背 § 21 上肢の血管と神経の まとめ § 67 骨盤の切半 § 68 骨盤内臓の位置 § 69 骨盤の血管と神経 § 70 骨盤内臓 § 80 鼻腔と咽頭鼻部	1. 鼻中隔に沿って走る脈管・神経を説明できる。 2. 上鼻甲介、中鼻甲介、下鼻甲介と上鼻道、中鼻道、下鼻道の関係とその役割を説明できる。 3. 副鼻腔、鼻涙管、耳管の開口部を識別し、その構造的特徴を説明できる。 4. 腰神経叢について概説できる 5. 骨盤内臓と動静脈の関係を概説できる。 6. 骨盤内臓の位置・恥骨結合を確認し、骨盤と仙骨を適切に切半できる。 7. 男性・女性の骨盤内臓の断面からその構造を概説できる。 8. ダグラス窩について説明できる。 9. 前腕の筋と骨について説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P52～61, 71～72, 244～269, 305～309
11月2日(月) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	眼窩の観察 1 腎臓と副腎の観察 肘関節の観察 § 23 ひじの関節 § 50 腎臓と副腎 § 86 眼窩の内容	1. 涙嚢・鼻涙管の立体的構造を説明できる。 2. 眼窩の天蓋、眼窩骨膜、眼窩脂肪体について説明できる。 3. 眼筋の走行、眼窩上神経、眼動脈の走行を説明できる。 4. 肘関節の構造や筋肉との関係を説明できる。 5. 腎臓・副腎の位置的関係、構造的特徴について概説できる。 6. 腎臓内部の構造を説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P169～190, 278～283, 173～179, 287～289, 309～313, 319～329
11月4日(水) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	眼窩の観察 2 股関節の観察と骨盤の観察のまとめ 上肢の観察のまとめ 上肢離断 § 22 肩の関節とその周辺 § 71 骨盤壁の筋と股関節 § 86 眼窩の内容	1. 眼筋の走行、眼窩上神経、眼動脈の走行を説明できる。 2. 股関節の構造を概説できる。 3. 骨盤内の臓器、脈管・神経の走行について説明できる。 4. 上肢の筋と神経・脈管の走行について説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P76～78, 270～271, 321～324
11月6日(金) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	眼球の観察 肝臓、膵臓、脾臓、十二指腸の観察 § 48 肝臓 § 49 十二指腸・膵臓・脾臓 § 85 眼球を前から見る § 87 眼球など	1. 眼球の内部構造を説明できる。 2. 肝臓の構造、肝門、胆嚢、胆管の立体的配置について概説できる。 3. 十二指腸、膵臓、脾臓の立体的配置について概説できる。 4. 大十二指腸乳頭とは何か概説できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P164～173, 319～321, 325～329

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
11月24日 (火) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	咽頭・喉頭・気管の観察 甲状腺の観察 S 42 縦隔の深部 S 74 咽頭 S 75 甲状腺と気管 S 76 喉頭 S 92 脳の概観 S 93 クモ膜、脳軟膜 S 94 脳の血管 S 95 脳神経の根	1. 咽頭側から見た口腔の構造を説明できる。 2. 咽頭、喉頭の構造、口峽部の構造を概説できる。 3. 咽頭後壁の構造を説明できる。 4. 喉頭の構造を説明できる。 5. 咽頭・喉頭粘膜下にある筋肉の走行を説明できる。 6. 甲状腺・上皮小体の位置関係、血管分布を説明できる。 7. 頸部から胸部に連なる構造について概説できる。 8. 脳の概観から各脳を分類できる。 9. 脳硬膜、クモ膜、脳軟膜を識別できる。 10. 脳の脈管、特に脳底部の動脈、硬膜静脈洞の相について説明できる。 11. 脳神経の根を識別できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P137～142, 283～296, 342～348
11月25日 (水) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	口蓋の観察 脳の正中断の観察 S 83 舌と口蓋 S 101 大脳の切半と第三脳室	1. 大口蓋孔、小口蓋孔、切歯窩と神経・脈管の関係を説明できる。 2. 口蓋に分布する神経・脈管の走行について説明できる。 3. 硬口蓋と軟口蓋の粘膜下の構造について説明できる。 4. 大脳・小脳・間脳～脳幹を半切する際に切断される構造を説明できる。 5. 脳梁、視床間橋を識別できる。 6. 中枢神経と脳室の関係を説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P315～316, 364～368
11月27日 (金) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	咀嚼筋・翼突筋静脈叢の観察 内頸静脈の枝と下顎後静脈の観察 S 9 胸部の深層と腋窩 S 73 顔の浅層 S 74 咽頭 S 81 咀嚼筋と下顎管 S 82 顎関節と側頭下窩	1. 内側翼突筋・外側翼突筋の起始・停止、機能を説明できる。 2. 顎動脈の走行・翼突筋静脈叢について説明できる。 3. 咬筋・側頭筋の起始・停止、機能を説明できる。 4. 翼突筋静脈叢～内頸静脈の連続性について説明できる。 5. 口腔領域から血液を回収する静脈系の走行を概説できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P29～32, 278～286, 310～315

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
12月1日(火) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	側頭下窩の観察 顎動脈と外頸動脈の枝の 観察とまとめ 脳幹と小脳の観察 § 82 顎関節と側頭下窩 § 96 脳幹の外表面 § 97 小脳 § 98 第4脳室 § 99 延髄と橋	1. 側頭下窩と周囲の関係性を説明できる。 2. 顎動脈の走行と分岐する枝について説明できる。 3. 耳神経節・耳介側頭神経の走行を説明できる。 4. 脳幹・小脳の位置や脳室との関係を説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P313～315, 349～361
12月2日(水) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	顎関節の観察 大脳の観察 § 82 顎関節と側頭下窩 § 101 大脳の切半と第三脳室 § 102 大脳皮質 § 103 嗅脳とその付近	1. 顎関節の構成に関わる骨、関係する筋肉、靭帯について説明できる。 2. 顎関節の関節円板、関節包の構造を理解し、説明できる。 3. 翼突下顎隙に見られる脈管・神経について説明できる。 4. 中心溝、外側溝、大脳回・大脳溝の関係、大脳皮質の構造を説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P313～315, 364～375
12月4日(金) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	舌下神経管と周辺の構造 の観察 舌咽神経、迷走神経の走行 と内頭蓋底の観察 大脳と側脳室の観察 § 88 舌下神経管と頸静脈孔 § 101 大脳の切半と第三脳室 § 105 側脳室と尾状核	1. 舌下神経管の走行を説明できる。 2. 内頭蓋底における頸静脈孔の位置とその走行について説明できる。 3. 舌咽神経、迷走神経、副神経の経路について説明できる。 4. 大脳と側脳室の構造的関係を説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P329～330, 364～368, 378～380
12月8日(火) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	耳介・外耳・中耳の観察 耳小骨、乳突蜂巣、鼓膜 の観察 大脳神経核、脳幹・小脳 の観察2 § 89 外耳と中耳 § 97 小脳 § 100 脳幹と小脳の横断面 § 104 大脳の連合線維とレンズ核 § 105 側脳室と尾状核 § 106 間脳 § 107 大脳と間脳の断面	1. 外耳道を構成する骨・軟骨の範囲を識別できる。 2. 鼓膜、中耳での耳小骨の位置関係、耳管について説明できる。 3. 乳突蜂巣について説明できる。 4. 大脳の水平断面、前額断面から大脳核の位置や脳室などの概形を説明できる。 5. 小脳・小脳脚について識別できる。 6. 松果体の位置を説明できる。 7. 脳室について説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P330～335, 352～354, 361～364, 376～384

月 日	担当者	ユニット名 内 容	到達目標 [コア・カリキュラム]
12月9日(水) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	内耳の観察 脊髄の観察 § 90 内耳 § 100 脳幹と小脳の横断 面	1. 内耳の構造を説明できる。 2. 顔面神経管の走行と顔面神経の分岐の関 係について説明できる。 3. 錐体鼓室裂と鼓索神経の関係について説 明できる。 4. 頸髄、胸髄、腰髄、仙髄、馬尾を識別できる。 5. 頸膨大、腰膨大について説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域 を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめ ておくこと。P336～338, 361～364
12月11日 (金) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	翼口蓋窩の観察 翼口蓋神経節の観察 § 84 副鼻腔と翼口蓋神経 節	1. 翼口蓋窩を構成する骨について説明できる。 2. 翼口蓋窩の位置について説明できる。 3. 翼口蓋神経節からでる大口蓋神経の走行 について説明できる。 4. 顎動脈の翼口蓋部での走行経路について 説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域 を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめ ておくこと。P317～318
12月15日 (火) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	上顎神経と上歯神経叢の 観察 § 78 頭蓋の内面	1. 上顎神経の枝、前上歯槽枝、中上歯槽枝、 後上歯槽枝の走行について説明できる。 2. 眼窩下神経、動脈の走行について説明できる。 3. 眼窩下溝、眼窩下管、眼窩下孔の立体的 位置関係について説明できる。 4. 上歯神経叢について説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域 を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめ ておくこと。P297～301
12月16日 (水) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	下顎神経と下歯槽神経、 耳神経節の観察 § 91 翼突管と頸動脈管と 耳神経節	1. 下顎孔から下顎骨に入る下歯槽神経・動 脈・静脈の走行について説明できる。 2. 下歯槽神経の走行から下顎孔伝達麻酔時 に必要な注意事項を列举できる。 3. オトガイ神経と下歯槽神経の連続性、各 神経の分布領域について説明できる。 4. 下歯槽神経の枝が各歯に到達する経路に ついて説明できる。 5. 下神経叢について説明できる。 6. 耳神経節と関連する神経の走行について 説明できる。 事前学習：解剖実習の手引きの以下の領域 を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめ ておくこと。P338～341
12月18日 (金) 3、4限	藤原尚樹教授 藤村 朗教授 (歯科医学教育 学分野)	納棺	1. 臨床解剖実習で学んだ人体の構造、機能 との関連について概説できる。 2. 医療人としての心構えを理解し、人間の 尊厳とは何かについて、自分の意見と述 べることができる。 事前学習：臨床解剖実習で行なった解剖・ スケッチなどを振り返り、人体の構造や機 能との関連について改めて自分の考えをま とめておくこと。

教科書・参考書（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書名	著者氏名	発行所	発行年
教	口腔解剖学 第2版	井出吉信ほか編	医歯薬出版	2018年
教	口腔顎顔面解剖ノート	藤村朗ほか編、井出吉信 監修	学建書院	2014年
教	ヴォルフ カラー 人体解剖学図譜	Petra Köpf -Maier、井上貴央 編	西村書店	2011年
教	解剖実習の手びき 第11 版	寺田春水、藤田恒夫	南山堂	2004年
教	図説 歯の解剖学 2版	高橋和人ほか著	医歯薬出版	1998年
参	標準解剖学第1版	坂井建雄著	医学書院	2017年
参	分担 解剖学 改訂11版 全3巻	森於菟ほか著	金原出版	1982年
参	図説 口腔解剖学1～5巻 第3版	上條雍彦 著	アナトーム社	2006年
参	日本人体解剖学 19版 全2巻	金子丑之助 原著	南山堂	2000年
推	ネッター 頭頸部・口腔 顎顔面の臨床解剖学アト ラス 原著第3版	Neil S. Norton 著 前田健康 監訳	医歯薬出版	2018年
推	プロメテウス 解剖学アト ラス 口腔・頭頸部第2版	Eric W. Baker 編 坂井建雄、 天野修監訳	医学書院	2018年

成績評価方法

前期評価：

骨学到達度試験（30%）、筋学到達度試験（30%）、前期試験（35%）、演習レポート・提出物など（5%）で評価し、総合評価65%以上を合格とする。

後期評価：

神経学到達度試験（30%）、後期実習試験（30%）、後期筆記試験（35%）、演習レポート・提出物など（5%）で評価し、総合評価65%以上を合格とする。

総合評価：前期（50%）、後期（50%）で65%以上を合格とする。

特記事項・その他

各講義において学習した内容は、次回以降の講義の基盤となる。すなわち、各講義はすべて積み重ねの講義体系を取っているため、講義ごとにその内容をしっかり理解しておく必要がある。それには教科書や参考資料において人体の諸器官の構造や機能との関連についての記載を読み、理解できない内容についてリスタップしておくなど事前学習が重要であり、そのことが、講義内容の整理を助ける。また、各単元の終了時に、到達度試験を設定しており、それまでの単元の振り返りをするための動議づけになっている。各単元において、事前学習すべき教科書のページを指示するので、それを参考に事前学習を行うこと。

アクティブラーニング：講義においては定期的に演習課題を提示し、学生同士で教えあう時間を設け、全体及び個々の学生の理解を深める。

臨床解剖学実習は座学で学んだ内容を総合的に理解した上で実施することが必要で、実習を行うにあたり提示している事前学習を行い、学生同士で剖出した組織や器官の形態や特徴について議論しながら実習すること自体がアクティブラーニングである。また、実習内に提示する課題を実施することでよりいっそう、解剖学的知識の定着、理解度を深める。

WebClassにおいて、アクティブラーニングの課題や、その他の情報提示、フィードバックを行うので、使用方法を確認しておくこと。

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
MacBook Pro 13inch	Apple	1	基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料作成と提示用
iMac 27 inch	Apple	1	基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料作成と提示用
デジタルマイクロスコープ一式	DS-3UX	1	基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料提示用
顕微鏡用デジタルカメラ一式	DS-5Mc-U2他	1	基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料作成と提示用
パソコン	MA970J/A ZOEM	1	基礎実習・研究用機器	講義の視覚素材資料作成
デジタル一眼レフカメラ一式	D700	1	基礎実習・研究用機器	解剖実習遺体の破格症例の画像記録
パソコン一式	XPS730	1	基礎実習・研究用機器	解剖実習遺体の破格症例のデータ保存及び画像処理 切片からの3D再構築・画像作成
ハードディスク	HDL-GTR3.0	1	基礎実習・研究用機器	解剖実習の画像データ一括保存
A3スキャナ	ES-10000G	1	基礎実習・研究用機器	大型切片画像データの入力
冷蔵庫	SR361T	1	基礎実習・研究用機器	実験・実習試料及び試薬の保存
ノートパソコン・一式	CFS9LYFEDR	1	基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料提示用
デジタルマイクロスコープ	VHX-1000/1020	1	基礎実習・研究用機器	実験・実習資料のデジタルデータ採取・保存。講義での供覧
画像連結システム一式		1	基礎実習・研究用機器	大割切片の撮影、タイリング像の作成
デスクトップパソコン一式	B4F75PA_ABJ	1	基礎実習・研究用機器	大容量画像の処理、立体再構築像作成
3次元カラー造形機 Z Printer450 一式		1	基礎実習・研究用機器	CT 3D画像の実体化による講義のため
バイオメディカルフリーザー	MDF-U539	1	基礎実習・研究用機器	実験、実習資料および試薬の保存、その取扱い実習の実習
ノートパソコン ProBook Notebook PC	450 G2	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成
デスクトップパソコン Workstation 一式	Z840	1	基礎実習・研究用機器 視聴覚用(学部授業他)機器	授業のデモ及び研究データ解析用
分析天秤 ATX84 型	321-71000-02	1	基礎実習・研究用機器	臨床解剖実習で使用する試薬作成・研究用試薬作成
カラーコピー機 image RUNNER ADVANCE	C3530F II	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成
TeraStation TS3410DN 4TB	TS3410DN0404	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成
無停電電源装置	BN75T	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成
MS シュレッダー	MSR-25CM	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成
ノートパソコン	New XPS15	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成

デスクトップパソコン	iMac Retina 5K	1	視聴覚用機器	講義資料の作成、試験問題作成の画像編集・整理・研究論文作成、データ整理
31.5型ディスプレイ	328P6AUBREB/11	1	視聴覚用機器	講義資料の作成、試験問題作成の画像編集・整理・研究論文作成、データ整理
タブレット兼ノートパソコン一式	Surface Pro6	1	基礎実習・研究用機器	講義・実習・学会発表用